

# 定住促進・幼保一元化の取り組み

報告者 山本 優人

- 視察先
- ・ 和歌山県 那智勝浦町
- ・ 和歌山県 白浜町

● 視察日程 平成26年11月26日～28日

● 視察参加者 門脇直樹、須藤正人、山本優人

## 『定住促進の取り組みについて』（那智勝浦町色川地区）

### 概要

那智勝浦町は「マグロと温泉の町」として、年間の観光客135万人が訪れる観光地であるが、色川地区は町の90%を占める山間地に駅から車で40分の距離の集落に215世帯（396人）が居住し、その住人の45%（180人）の移住者が移り住んで集落を形成している。またこの地域活動は全国的に注目され、定住の取組活動事例として数々の大臣表彰を受けている。

の大臣表彰を受けている。

37戸）  
年収200～300万円程度

**定住招致活動の内容、組織等**  
定住促進を図るため、「籠ふるさと塾」（廃校校舎改修）を拠点施設として色川地域振興推進委員会が「山村体験（短期）」、「実習体験（長期）」、「定住体験」をさせ、地域の生活・文化を理解してもらい、定住・就農の希望意向を確認した後、ふるさと塾会員として認められた者に住居・農地の斡旋をしている。

**定住者と既存住居者との問題及び課題等**  
急峻な土地により住宅、農地の確保が難しいほか、水道がなく生活用水の確保。地域文化の承継。

**定住者に対する行政支援の内容**  
定住者個人への行政支援は全く行っていない。地域の雇用としてキャンプ場公園・販売施設を整備。指定管理者の委員会を通じて販売員等の就職の機会を得る。

**定住者の職業及び収入の程度**  
全世帯74戸（農業17戸、林業11戸、バイト9戸、その他

は異次元のものであるが、当町の定住促進の方向性は、どうあるべきか感じた。



那智勝浦町役場にて説明を受けました。

## 『幼保一元化の取組について』（白浜町）

### 概要

白浜町は古湯の「白川温泉」と知られ、年間330万人の観光客が訪れる観光の町で、ホテル・旅館・民宿などの宿泊施設160棟が営まれている。町の人口1万人の47%がサービス産業に就業する観光の町である。最近はアドベンチャーワールドで双子のパンダが生まれた。

### 幼保一元化に取り組んだ背景

観光の町であるがゆえ、ホテル・旅館などの宿泊施設の勤務実態は「朝番・昼番・夜

番」とあり、子育てと仕事の両立をするために町民が幼保一元化を求めている。

努力を積み重ねた。現在は幼稚園教諭の辞令をもらっている職員全員が、保育所勤務の経験もしている。

**幼保一元化に至る経緯**  
幼児が受ける幼児教育に差があつてはならないとする基本理念に立って、全ての幼児に等しく心身ともに健やかな生活と発達、福祉と教育を保障するため、幼保双方の機能を生かし、弾力的な運用することで幼児教育の振興発展を図るとの諮問機関の答申に基づき、国の「構造改革特区」に申請し幼稚園と保育園の区別ない施設となった。

**今抱えている課題等**  
園児同士の保育時間の違いから、短時間部の園児は保育時間が短く、また夏休み等があるため夏の時期には保育時間の長い園児と一緒に活動ができない。

### 幼保一元化の苦労、問題点

幼稚園教諭と保育士が同じ観点で幼児教育（保育）を進めるということは、事業を実施していくに当たって難しかったが、人事交流（幼稚園から保育園、保育園から幼稚園）を重ね、主任保育士で構成する保育内容検討会においては、一貫した保育計画を樹立する

就学前のすべての子どもと親がいつでも気軽に利用できる施設であることに加え、保護者が気軽に子育てに必要な相談、助言、支援がうけられるよう、地域の子育て支援センターの機能となる必要がある。

**共同調理場による幼児給食状況**  
加工食品（レトルト食品・冷凍食品・ドレッシングなど）や化学調味料を使用せず、天然のだしの薄味を心がけ、国産の物、季節の物を使った栄養バランスのとれた給食を提供している。



子育て支援センターの役割も担う白浜幼稚園の様子